

11月5日 東京都多摩障害者スポーツセンターにて、「第31回卓球大会」が開催されました。関東ブロック・全国から67名の選手が参加し、その大会に石川s t tクラブの、小坂雅博が特別参加した。夜行バスでの移動のため疲れがあったが、秋晴れのごとく体調は良かったらしく、この大会で見事に優賞を手に入れることができた。

成績は下記のとおり。S T T入賞者

S T T男子の部 (アイマスク あり) 優勝 中里 聡 個人
S T T女子の部 (アイマスク あり) 優勝 藤枝 史枝 個人
S T Tオープンの部 (アイマスク なし) 優勝 小坂 雅博 石川S T Tクラブ

「この、大会に参加して思ったこと」

石川s t tクラブ 小坂 雅博

ついに北信越ブロック以外での優勝という域にまで来てしまいました。正直な胸のうちはとても複雑な心境です。

- 1 頂点に至った幸福感。S T Tやってるからには、いつかはつかみたい頂点。今までもそのために一生懸命に練習を積み重ねていたわけですが、こうして優勝という現実自分がいることは言葉に出来ないような幸福感があります。
- 2 思ったよりも早く訪れた全国レベル大会での優勝に、謙遜感。本格的にS T Tをやりはじめてまだ5年にも満たないうちでの大会制覇に、本当に僕が今優勝していいものなんだろうかという感覚。
- 3 頂点を極めたゆえの責任感。頂点を経験したからには、今後は無様な負け方は出来ないなという自戒心。この三つが入り混じった感覚があります。しかし、今回のために昔よりははるかに練習量を増やし、万全な体制で挑んだ結果としてとても誇らしく思っております。

今回の大会は 11ポイント3ゲームズマッチとのこと、準決勝の相手は 市田愛子選手。

そして決勝は静岡の赤堀選手。表情からしてとても怖そうな人柄に見えましたが、いざ会話となるととても気さくに話してくださった。もうここまできたら最後まで上昇気流にあやかっただけと、そののりだけで決勝に挑み、気がついたら2-0で快勝。ここに優勝という瞬間を手中に収めたのです。「ばんざいー」屈辱な全国仙台大会を味わって2ヶ月という短期間のうちにどん底から一気に天国に上がってしまったことが信じられないというか、でもこれは、9月以降に集中的にやった練習と、北信越ブロック大会で個人2位、団体3位に入賞できた故の自信がこういう運命を導いてくれたと思います。自分としては、もっともっと先の話だろうと思っていた頂点に、立てれたことは、S T T競技者としてだけでなく、自分という存在や人生に対してもかなり大きな自信になった。「そうか、こんな私でもやればできるんだと…」今回の大会に参加して、S T Tにも通じるものをもろろ感じました。それは、駆け引きの最中でも必ずある甘い球を仙台での悔やみをホップ、北信越ブロック大会での健闘をステップ、そしてこの卓球大会で、大きくジャンプ 飛躍できました。S T Tクラブの皆様、レディースの皆様そして盲学校 卓球部の皆様に、心からの感謝と敬意をささげます。誠にありがとうございます。